

企業研究所訪問探求ツアーを開催 (奈良先端大)

奈良先端科学技術大学院大学キャリア支援室は3月3日、12回目を迎えるトップ座談会の一環として「企業研究所訪問探求ツアー」を開催した。今回のイベントは、民間企業における研究開発体制を実感することを目的としたもの。初回訪問先は、昨年7月に奈良先端大に隣接するけいはんな学研都市精華地区に開所したサントリーワールドリサーチセンター。当日はバイオサイエンス研究科博士前期課程学生4名、博士後期課程学生9名、博士研究員2名、助教2名をはじめ、指導教員3名、特任教授、客員教授各1名が陪席し、計22名が参加した。



解説する 辻村氏

はじめに、サントリーグループの成り立ちを紹介する展示スペースや、環境に配慮し、部門間の壁を取り払ったフリーアドレスを特長とする研究スペース(実験室)を見学。続いて、サントリーホールディングス(株)の専務取締役でR&D部門・知的財産部担当である辻村英雄氏から、サントリーグループのグローバル戦略と研究所設立の背景などに関する



会場ホールで



懇親会との参加者

解説や、近年のヒット商品の開発秘話が披露された。続いて行われた意見交換会では、「けいはんな学研都市以外に研究所の候補地は存在したのか」「研究員の研究テーマの自由度はどの程度あるのか」「流行を予見した上でどのように商品開発を実施するのか」といった質問が寄せられた。また、「最新の研究設備を見学することができ、とても刺激を受けた」、「外からはなかなか見えないサントリーの哲学、ものづくりを感じる事ができた」との感想も寄せられるなど、参加者のキャリアビジョンの再考を促す有意義な体験となった。

留学生インターンが瀬戸内海の島で国際交流企画実習に挑戦 (広島大)

広島大学では、留学生インターンが瀬戸内海の島で「国際交流企画」実習に挑戦した。「グローバル化支援インターンシップ」(担当:恒松直美国際センター准教授)を受講する広島大短期交換留学プログラム(HUSA)の留学生インターン(中国・台湾出身)と、「多文化共生の地域づくり実践研究プロジェクト」(HUSAプログラム企画)の留学生チーム(アメリカ出身)が、去る2月21日に瀬戸内海倉橋島の呉市倉橋町で開催された「倉橋フェスティバル」に参加し、「国際交流企画」実習に挑戦した。



倉橋観光ボランティアガイドと

会場では「広島大学国際センター」と掲げたテントを設営し、地域住民と心温まる交流の場を持った。HUSA留学生による倉橋フェスティバル参加は、2回目となる。国際交流企画として、①中国の紙切り飾り作り、②カウボーイ姿での写真撮影(顔出し看板作成と塗り絵)、③アメリカのイースターエッグの絵付けを

実践し、地域の小さな子どもから年配までが楽しめる企画となった。また、フェスティバル・ステージで留学生の紹介を行い、餅まきにも参加

倉橋フェスティバル・ステージでの留学生紹介した。今後、留学生と地域住民との絆が一層深まることが期待される。

韓国の春川教育大一行が奈教大を訪問

韓国の春川教育大学院一行(大学院生19名、引率職員2名、通訳1名)が、このほど奈良教育大学を訪問した。参加者の大半が現職小学校教員であることから、初等教育能力を向上させることと、日本の教育と文化現場を直接見て感じるによりグローバルマインドを培うことを目的としたもの。

